

LRQA独立保証証明書

東レ株式会社のサステナビリティレポート 2026 に掲載される 2025 年度 環境及び社会データに関する保証

この保証証明書は、契約に基づいて東レ株式会社に対して作成されたものである。

保証業務の条件

LRQA リミテッド（以下、LRQA という）は、東レ株式会社（以下、会社という）からの委嘱に基づき、サステナビリティレポート 2026 に掲載される 2025 年度の環境及び社会データ¹（以下、報告書という）に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、ISAE3000（改訂版）及び温室効果ガス（以下、GHG という）排出量については ISO14064-3:2019 を用いて、限定的保証レベルの独立保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、会社および日本国内と海外の連結対象子会社・関係会社の運営及び活動に対して、以下の要求事項を対象とする。

- 会社の定める報告手順への適合性の検証
- 以下の選択された環境・社会データの正確性、信頼性の評価

環境データ²

- スコープ 1 GHG 排出量(トン CO₂e)³
- スコープ 2 GHG 排出量 [マーケット基準及びロケーション基準](トン CO₂)³
- スコープ 3 GHG 排出量 (カテゴリー1-9, 11-14) (トン CO₂)³
- エネルギー使用量(GJ)³
- 産業廃棄物量^{3,4}、用水使用量、排水量、SO_x 量、NO_x 量、ばいじん量、VOC 量、COD 量(トン)⁵

社会データ

- 休業災害度数率、死亡災害件数⁶
- Tier-1 Process Safety Events⁷

LRQA の保証業務は、報告書で言及されている上記に明示した以外の会社のサプライヤー、業務委託先、その他第三者に対するデータ及び情報は対象としていない。

LRQA の責任は、会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA はそれ以外のいかなる義務または責任を放棄する。会社は報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析及び公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

LRQA の意見

LRQA の保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- 自らの定める基準に従って報告書を作成していない
- 下表 1 に要約された環境・社会データについて、正確で信用できるデータを開示していない

ことを示す事実は認められなかった。

この保証証明書で表明された検証意見は、限定的保証水準⁸、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

¹ 環境データについては 2025 年 4 月 1 日~2026 年 3 月 31 日(但し海外関係会社は 2025 年 1 月 1 日~12 月 31 日)、社会データについては 2025 年 1 月 1 日~12 月 31 日を対象とする。

² GHG の定量化には固有の不確かさが前提となる。

³ 会社の本社、日本国内の 13 工場・10 事業拠点と国内関係会社・海外関係会社を対象とする。

⁴ 産業廃棄物の種類別内訳も保証業務の対象としている。

⁵ 会社の日本国内の 13 工場・2 拠点を対象とする。

⁶ 日本国内の連結対象子会社を含む 43 社、東レコムズ、海外の関係会社を対象とする。また、国内においては、工場内で働く請負業者も対象に含まれる。

⁷ 日本国内の連結対象子会社を含む 43 社、東レコムズ、海外の関係会社を対象とする。

⁸ 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。